

佐世保市平成 29 年度 新要録様式（佐世保版）実施の効果に関する報告書

門田理世（西南学院大学）

中ノ子寿子（西南学院大学大学院生） 諫山裕美子（西南学院大学大学院生）

佐世保市幼児教育センター

1. はじめに

本報告書は佐世保市の新要録様式（佐世保版）実施の効果に関する分析結果を報告するものである。これまで保育所、認定こども園、幼稚園（以下、総称して乳幼児教育施設）は、それぞれの教育・保育の基準となる指針、要領が異なっており、それを反映して3施設はそれぞれ異なる様式で要録を作成、卒園児が進学する小学校への送付を行っていた。しかし、近年厚生労働省（2016）が「乳幼児教育施設の要録の整合性を図ることで小学校での要録活用が進む」と明示したように、乳幼児教育施設での子どもの育ちを小学校へとつなげる保幼小連携の推進のために、乳幼児教育施設の要録様式を共通化していく重要性が挙げられている。このような背景を踏まえ、佐世保市では平成 22 年より始めた保幼小連携の取組を更に進めるため、平成 27 年度より佐世保市幼児教育センターが主導となり、可能な限り3施設の要録様式を統一した「新要録様式（佐世保版）」を作成し、保育所に「佐世保市 保育所児童保育要録」、認定こども園・幼稚園に「佐世保市 認定こども園こども要録・幼稚園幼児指導要録」（以下、総称して新要録）を配布している。翌平成 28 年には新要録を実際に使用した感想について、佐世保市内の全ての小学校・認可保育所・認定こども園・幼稚園を対象にアンケート調査を行い、その結果乳幼児教育施設と小学校において「良かった」「今後の保幼小の連携に活用される」と肯定的な意見が9割を超えていた。このことから佐世保市の新要録様式作成が乳幼児教育施設と小学校の双方にとって前向きな改訂であり、以前の様式よりも良くなったと捉えられていることが示唆されたが、この調査では多肢回答項目の内容の不備や自由記述欄がないことで、回答者の新要録に対する意識を十分に探ることができなかった。そこで今年度は前回の調査に対する反省を基に、質問項目や回答方法を見直したアンケートを新たに作成し、新要録に対する回答者の意識と、2年目を迎えた新要録様式が乳幼児教育施設と小学校でどのように捉えられ、活用されているのかという実態についてアンケート調査を行った。本報告書ではその新要録様式に対するアンケートの分析結果を報告し、新要録様式（佐世保版）の課題点や今後の展望についても言及する。

2. アンケート調査の概要

【調査対象】 佐世保市内の全小学校、認可保育所、認定こども園、幼稚園

【調査期間】 平成 29 年 6 月

【アンケート調査項目】

小学校

- ・回答者属性
（性別、年齢、現職、1年生担任経験）
- ・今年度入学した1年生の要録を読んだか
- ・受け取った要録をいつ読むか
- ・受け取った要録の内容で戸惑った項目
- ・小学校では要録を誰がどのように活用しているか
- ・今後要録をどのように活用できるか
- ・新要録様式の良い点や改善してほしい点

乳幼児教育施設

- ・回答者属性
（性別、年齢、現職、昨年度の担当職、昨年度要録の記入）
- ・要録を書く目的は
- ・要録を書く際、最も意識している点は
- ・送り先の小学校で要録をどのように活用してほしいか
- ・小学校で要録が活用されていると思うか
- ・要録を記入する際の戸惑った項目
- ・新要録の良い点や改善してほしい点

3. 結果

【I 共通回答項目】

(1) アンケート回答者の概要

○ 回答数と回答者の担当職

表1. アンケート施設別回答数と回答者の担当職

	施設数	回答数	回答率	有効回答	回答者の内訳（今年度の担当職）									
					園長	主任	年長担任	校長	副校長	教頭	教務主任	1年担任	その他	無回答
認可保育所	68	63	92.6%	101	10	20	61	—	—	—	—	—	9	1
幼稚園	8	8	100%	10	0	2	8	—	—	—	—	—	0	0
認定こども園	32	29	90.6%	49	3	11	26	—	—	—	—	—	3	6
乳幼児教育施設計	108	100	92.5%	160	13	33	95	—	—	—	—	—	12	7
小学校	46	45	97.8%	100	—	—	—	5	1	7	5	69	11	2
合計	154	145	94.2%	260	13	33	95	5	1	7	5	69	23	9

※乳幼児教育施設において、「主任」と「年長組担任」に両方回答があるものは、「主任」として計数

乳幼児教育施設で、昨年度の要録を記入した人は111人で全体の約7割であった(図1)。また、その記入者を、昨年度の担当職別で見ると、年長組担任が72.1%となった(図2)。

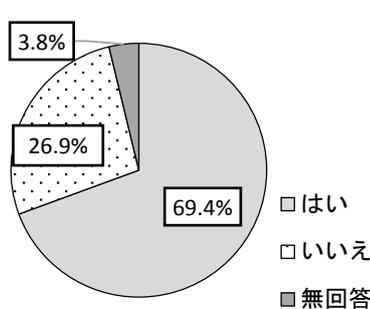


図1 昨年度の要録記入の有無

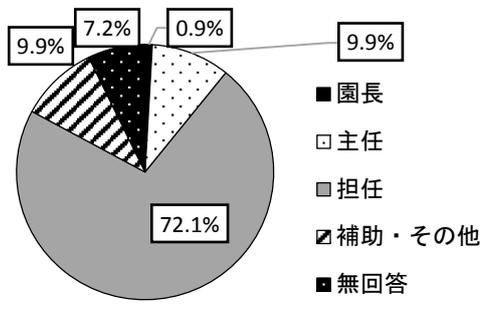


図2 要録記入した人の昨年度の担当職

(2) 要録の項目について

乳幼児教育施設に対して要録を記入する際に戸惑った項目と戸惑った理由(自由記述)、小学校に対しては受け取った要録に記入された内容で戸惑った項目と戸惑った理由(自由記述)を尋ねた。以下にその集計結果を示す。

乳幼児教育施設の有効回答アンケート160の内、96が戸惑った内容について記述しており、回答者の60%が要録

表2. 各施設の要録記入、受け取りの際に戸惑った項目(複数回答)

	乳幼児教育施設	小学校
子どもの育ちに関わる事項(全)	50	4
養護(保・認こ)	34	2
教育(発達援助)に関わる事項(保のみ)	6	4
指導の重点(幼・認こ)	3	1
教育・指導上参考となる事項(幼・認こ)	7	5
健康に関わる事項・配慮点(全)	8	2
出欠状況(幼・認こ)	5	1
その他(全)	21	14
無回答	54	73

※要録には全施設共通の項目と、施設ごとに異なる項目がある

記入の際に何らかの戸惑いを感じていることがわかる。表2からわかるように、戸惑ったという回答が特に多い項目は「子どもの育ちに関わる事項」と「養護」であった。戸惑った理由としては「子どもの育ちに関わる事項は養護、健康に関する配慮事項と重なる内容が多く、違いがわかりにくい」「養護には何を書くべきなのかわからない」という意見が目立った。これら2つの項目以外に対しても、「何どの項目に記入するのか判断が難しい」という意見が多く、今後要録の各項目に記入する内容について乳幼児教育施設に対する説明を行う必要性が示唆された。

小学校では、有効回答アンケート 100 の内、12 が戸惑った理由について記述しており、回答者の 12% が受け取った要録の内容に戸惑いを感じている。乳幼児教育施設側に比べて小学校側の回答では要録の内容に戸惑ったという回答自体が少なく、戸惑った項目にも突出したものは無い（表 2）。戸惑った内容の記述は様々であったが、「園によっては記入されていない項目がある」「子どもの特性のいい部分だけが書いてあった」等の意見が挙げられていた。

（3）要録の活用について

○ 誰がどのように要録を活用しているのか—小学校

小学校を対象にした「誰がどのように要録を活用していますか」の設問において、活用している人の割合を見ると、1 年生担任だけを答えた回答が 58.3%、複数の担当が見ると答えた回答が 32.1% だった（図 3）。どのように活用しているかという問いに関しては、「児童・保護者の実態把握」「指導の参考に」「問題があった時に」「学級編成」「支援の必要性の見極め」という回答が見られた。

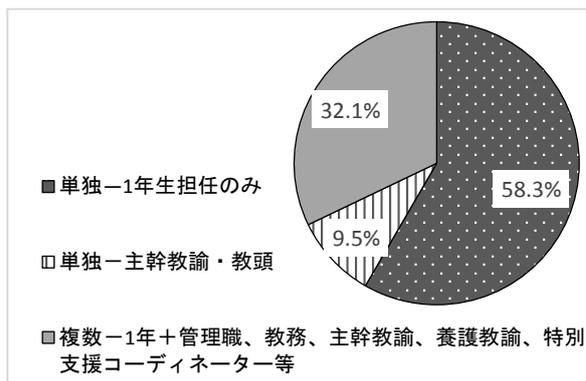


図 3 要録を誰が活用しているか

現在の活用をまとめると、まずは「児童を理解するために」「クラス運営、指導に生かす」と、1 年生担任や管理職等が入学してくる児童の様子を『把握する』ために活用していることが一番多く上げられた。また、「特に気になることがあった時」など、何かあった時に『後から確認する』ための活用法、それから「クラス編成のために担当職員が見る」と言ったように、『クラス編成用の資料』として、と 3 つの側面が小学校側の活用法にみられた。

○ 小学校で要録が活用されていると思うか—乳幼児教育施設

乳幼児教育施設に、小学校で要録の活用がされていると思うかを尋ねたところ、「はい」「どちらかといえばはい」と答えた人は全体の 56.3% であった。「どちらでもない」が 25.0%、「どちらかといえばいいえ」「いいえ」は 15% にのぼった（図 4）。

その回答の理由をみると、「はい」「どちらかといえばはい」には、「直接、活用していると聞いた」「連絡があり、見ていると分かった」という回答から、その回答者の園と小学校との連携は進んでいることが分かる。一方で、一番多く見られた理由は「活用されているか分からない」といった回答で、実際には要録に関して話す機会がなく、どのように活用されているのかは乳幼児教育施設側には見えにくいことが分かる。また、「小学校によって違う」「見ているか疑問に思うことがある」「小学校の方から『先入観をもつから読まない』『読む暇がない』と言われ、読んでいないと思う」という意見もあった。

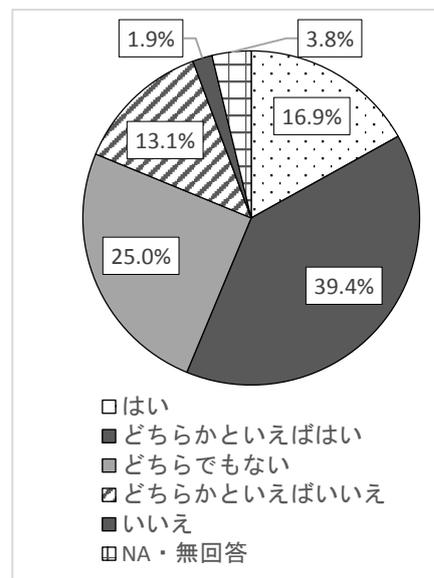


図 4 小学校で要録が活用されているか（乳幼児教育施設）

この設問から出てきた課題として、要録は送付した段階でやり取りが一旦終了するため、乳幼児教育施設側の半数は要録が活用されている実感を持っていないことが分かった。

○ 今後の活用について

要録の活用について、乳幼児教育施設の「送り先の小学校で要録をどのように活用してほしいか」と、小学校の「今後、要録をどのように活用できると考えるか」について、意見の集約を行った。

双方に共通していたことは、子どもの「実態把握」、「指導の参考」、「クラス編成」、「何かのトラブル時の参考に」という活用法であった。

乳幼児教育施設では、「子どもを理解した上で対応をするために」「一人一人に応じた対応のために」の回答がみられた。これは、子ども理解から始まる保育方法による考え方の特徴だと推察できる。また「子どもが安心して小学校生活を送るために」と子どもが困らないようにしてほしいという願いがこめられた回答が多くみられた。一方で小学校では「要録作成」「幼小連携」の回答がみられ、乳幼児教育施設から回答のなかった要録の活用法を考えていることが分かった。

(4) 新要録様式（佐世保版）の良い点・改善点について

佐世保市が新要録様式を導入して2年であることを踏まえ、乳幼児教育施設と小学校に新要録様式を使用した上で感じる良い点、改善点について尋ねた。以下にその結果を示す。

表3. 乳幼児教育施設と小学校が感じる新要録様式の良い点

	乳幼児教育施設	小学校
様式について	<ul style="list-style-type: none"> 統一されたことで、書きやすく、見やすくなった パソコンで入力ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 統一されたことで見やすくなった 各園から入学してくる子どもたちを同じ視点で知れる
記入欄について	<ul style="list-style-type: none"> 5領域の区切りがなくなり書きやすくなった 幅の広さが適切 	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関わる事項があり、見やすい 育ちに関わる事項があることで聞きにくい家庭の事情を知ることができる
記入内容について	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に非公開になり、書きやすくなった 健康に関わる事項、アレルギー情報がありわかりやすい 指導の重点に指導内容を明確に書くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的に詳しく書いてあり参考になる 長所をしっかりと見てある

表4 乳幼児教育施設と小学校が感じる新要録様式の改善点

	乳幼児教育施設	小学校
様式について	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが転園、途中退所をした場合、記入がしにくい 忌引・出席停止がある場合は出欠の合計が合わなくなる 幼稚園型認定こども園では出席日数の記入がしにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 発達状況を把握しやすいような工夫が欲しい(◎△表記等) 見にくい字もあるので全園パソコン書いて欲しい
記入欄について	<ul style="list-style-type: none"> 原本証明や園名、所在地の印鑑をうつスペースが欲しい 家庭環境を伝達する欄が欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> 引き継ぎ事項欄を設定して欲しい 発達障害等の状況、療育や発達検査、関係機関などの明記をして欲しい
記入内容について	<ul style="list-style-type: none"> 項目が分かれているがどの項目に当てはまるのか判断が難しい 養護の内容がわかりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 子どものいい部分だけでなく気になる部分も記載して欲しい 子どもへの具体的な指導方法も書いて欲しい
その他	<ul style="list-style-type: none"> 指導要録(写)送付書、返信用封筒同封は園ごとの判断にして欲しい 様式を毎年のように変更されると困る 卒園式、入園式と重なるので要録の提出時期を早めて欲しい 記入の具体例をつけて欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> 各園からの受領書類様式、返送方法を統一して欲しい 学級編成の参考にしたいので3月末には要録を届けて欲しい 3月の転居で他地区から転入してくる子どもの要録が手に入るようにして欲しい 園により子どもの捉え方が違うので、可能ならばお手本を配布して欲しい

表3からわかるように、乳幼児教育施設、小学校共に、要録様式が統一されたことで要録が書きやすくなった、見やすくなったという肯定的な評価をしている。しかし一方で、両者ともに新要録様式には

様々な改善点もある（表 4）と感じており、今後も双方の声を聞きながら要録の様式、送付の方法や送付時期について検討していくことが求められる。

【Ⅱ 各施設個別項目】

＜乳幼児教育施設＞

（1）要録を書く目的

乳幼児教育施設に対し、要録を書く目的を尋ね、自由記述での回答を求めた（表 5）。要録を書く目的として最も多く挙げられたのは「子どもがスムーズに小学校生活に移行できるようにするため」という回答で、回答者の多くが要録の第一義的な目的を「子どもの小学校生活へのスムーズな移行を支援すること」だと認識していることが明らかになった。また、その他にも「小学校の先生が園での子どもの様子を知るため」「保幼小の連携を図るため」「子どもの様子や成長を記録するため」等、様々な回答が挙げられており、乳幼児教育施設側にとって要録を書く目的が多岐に渡るものであることが明らかになった。

表 5. 乳幼児教育施設が考える要録を書く目的

子どもがスムーズに小学校生活に移行できるようにするため
子どもの情報を小学校に伝えるため
子どもが安心して小学校生活を送れるようにするため
小学校の先生が園での子どもの様子を知るため
小学校の先生の子ども理解を助けるため
小学校の先生が子どもに合わせた対応を考える際、手がかりにするため
保幼小が連続性を持って子どもに関わるため
保幼小の連携を図るため
保幼小で子どもについて情報共有・共通理解をするため
子どもの様子や成長を記録するため
自分の保育をふり返るため

（2）要録への意識

乳幼児教育施設に対して、要録を書く際に最も留意、意識している点について自由記述で回答を求めた。

表 6 の結果からわかるように、要録記入者は「書く内容への意識」「書き方への意識」「表現への意識」等、多様な意識を持ちながら要録を記入していることが明らかになった。回答の内容を見てみると「子どものいいところを重点的に書く」という意見もあれば「子どもの課題を重点的に書く」という意見もあり、要録を記入する際にどのような意識を持つのかは担当者や園によって違いがあることが明らかとなった。

表 6. 要録を書く際に最も留意、意識している点（乳幼児教育施設）

書く内容への意識	子どもの良い面・気になる面を両方書く 子どもの良いところを重点的に書く 子どもの課題（苦手なこと、困っているところ）を重点的に書く 家庭環境や保護者対応の留意点について書く その子に必要な個別の配慮や支援について書く 「気になる子」に行ってきた支援を具体的に書く 特に気がかけて見て欲しいところを書く 他の子と比較せずにその子の成長を書く 年長1年間での子どもの様子を書く 小学校への引き継ぎを意識して書く 今後の課題だと思われるところを書く
書き方への意識	簡潔にわかりやすく書く 子どもの様子や必要な配慮を詳しく書く 読む人に伝わりやすいように書く 5領域に沿って子どもの姿を伝える
表現への意識	子どものありのままの姿を正確に書く 読む人に先入観を与えるような書き方をしない 子どもの成長の過程を書く
その他	自分（担任）の考えだけで判断して書かない 日頃から子どものことについての気付きをメモに取る

<小学校>

(1) 今年度の要録を、どれくらい読んだか

小学校では、今年度入学した1年生の要録をどれくらい読んだか確認した。すると、「全員分読んだ」という回答は全体の約5割であった(図5)。

1年生の担任のみでは、「全員分読んだ」が53.6%、「数人分」が26%、「簡単に全体を把握」が14.4%だった。回答者数が少ないものの、1年生以外の担当職では全員分読んでいる人の割合が約6割であった。

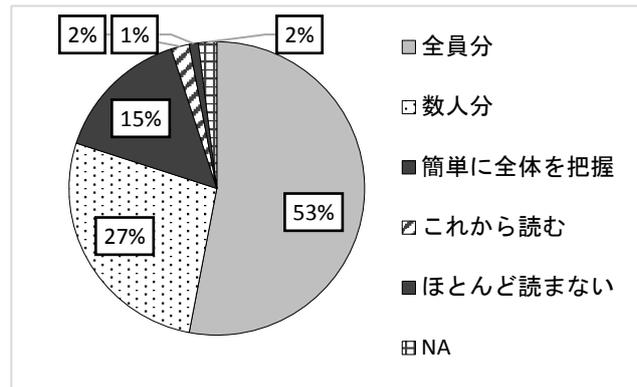


図5 今年度の要録を、どれくらい読んだか

(2) 要録はいつ読むか(複数回答)

受け取った要録をいつ読むかを複数回答で尋ねたところ、4月1日から入学式までの間が60人と、全体の6割の回答があった。また、次いで「問題があった時」、「受け取ってすぐ」と続くが、「その他」の項目として「入学後、5月・6月」という回答が17人見られたため、選択肢項目の不備も課題として挙げられた(図6)。

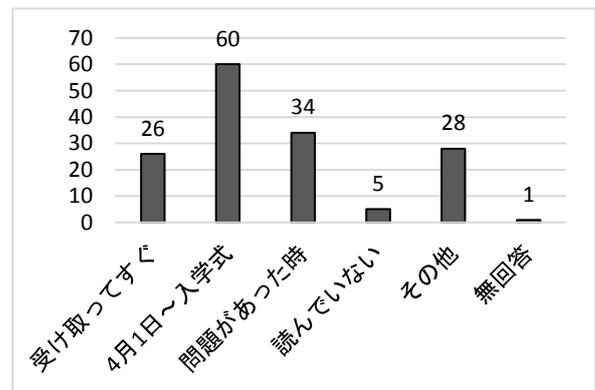


図6 要録を、いつ読むか(複数回答)

4. まとめと今後の課題

- ・ 乳幼児教育施設と小学校は新要録様式について「書きやすくなった」「見やすくなった」と肯定的な評価をしている。しかし一方で、新要録に記載する項目に関する質問では、乳幼児教育施設のアンケート回答者60%が要録の項目に対して何らかの戸惑いを感じており、要録の項目については今後も細やかな説明が必要だと示唆される。
- ・ 乳幼児教育施設や小学校は新要録の形式に対して「以前の様式より書きやすい、見やすい」という肯定的な評価をしている一方で、様々な改善点も感じている実態が明らかになった。平成31年に控えた要録改訂に向けて、改善が必要な項目の精査が求められる。
- ・ 要録の活用に関する調査項目では、送付側、受取側の要録の活用法についての意識が共通する部分がある一方で、受け取った小学校側が全員分を読んでいない実態や、送付した乳幼児教育施設側には活用の実態が伝わっていないことが明らかになった。今後、何のために要録が必要で、それをどのように活用していくかについて、佐世保市幼児教育センターを中心として、小学校、乳幼児教育施設双方が意見交換をし、より活用される要録のあり方について、検討するべきである。